

主題	感染を防止するために取り組んだ 手洗いチェッカーによる手洗い検査
副題	手洗いへの意識を高めるために
感染予防	手洗い検査

研究期間	24ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム アトリエ村
発表者：内藤 満	アドバイザー：		
共同研究者：高橋 樹世			

電話	03-5965-3400	メール	atorie@toshimaj.ne.jp
FAX	03-5965-3403	URL	www.toshimaj.or.jp

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	豊島区社会福祉事業団・アトリエ村は平成6年6月に開設されました。定員80名の特養とデイサービスセンターを併設し、現在は高齢者総合相談センターと居宅介護支援事業所を併設した高齢者施設です。地域の方々との交流がとて盛んで、皆様に支えていただきながら「真心と思いやりの花咲くアトリエに」をキャッチフレーズに心のこもったサービスをお届けします。
------------------------------	--

### 《1. 研究前の状況と課題》

アトリエ村では平成20年1月から3月にかけてノロウィルスが原因と思われる感染性胃腸炎が流行し、利用者24名、職員2名が感染もしくは感染が疑われる状況であった。

感染の経路は不明ではあるが、入所施設での感染は一般的には職員や面会者による媒介が考えられている。また感染の種類は接触感染であり、予防にはうがいよりも手洗いが有効といわれている。

我々は職員の衛生管理、特に手洗いに対する意識の低さが感染性胃腸炎の根元的な問題と考え、手洗いに関する関心と感染予防への意識を高める方法として手洗いチェッカーを使用した手洗い検査を実施することにした。

### 《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

検査の目的は職員が各々の手洗いの癖を知り、洗い残しのない正しい手洗いテクニックを身に

つけることにある。

またその結果、職員が媒介となる感染症の拡大を防止することができるのではないかと考えた。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

1回目の手洗い検査は平成22年6月から7月にかけておこなった。その後2回目を23年2月から4月、3回目を23年8月から9月にかけておこなった。

対象者はアトリエ村の全職員（事務・包括・デイサービス・特養）で、データの抽出については3回の手洗い検査をすべておこない、かつ現在（24年6月）もアトリエ村に在職している者のみとした。その結果、対象者は事務・包括・デイサービスのグループ26名、特養職員のグループ26名となった。

検査には、「手洗いチェッカーLED」を使用した。意図的な汚れとして蛍光ローションを手に塗り、石鹸で手洗い後紫外線ランプで洗い残しを

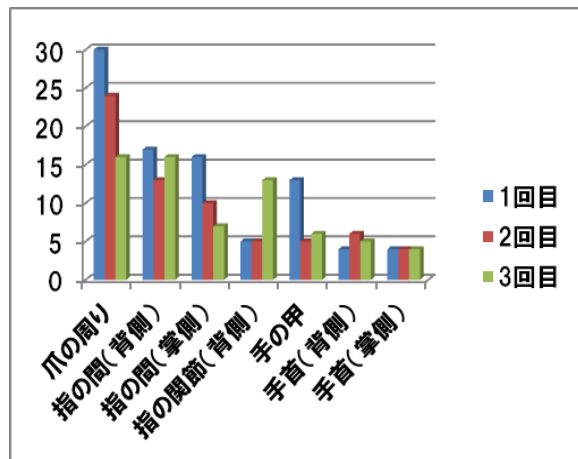
チェックした。そして手掌・手背を21か所に区分し、洗い残し部位を集計した。

1回目の検査は指示をせず、自由に手洗いをしてもらった。2回目・3回目はそれぞれ前回の結果を鑑み「手洗い時に特に注意するようになった点」を聞き取った。また3回目については、手洗いに要した時間を申告してもらった。

#### 《4. 取り組みの結果と考察》

##### (1) 洗い残しやすい部位

①3回を通し爪の周り、指の間（背側・掌側）が圧倒的に多く、次いで指の関節（背側）、手の甲、手首が多かった。一般的に洗い残しが多いとされている部位に集中していた。



②爪の周り、指の間（掌側）・手の甲は洗い残しが明らかに減ったが、指の間（背側）・手首は横ばいであった。指の関節（背側）は増えてしまった。

③手のひらは洗い残しが少なかった。

④特養職員はその他の職員と比較して、指の間（掌側）の洗い残しが明らかに多かった。

##### (2) 手洗いで意識するようになった点

「爪の周り・指と指の間を丁寧に洗うようになった」（12名）、手洗いに時間をかけるようになった」（4名）、また「手首を洗うようになった」「以前は意識しない部位を洗うようになった」などと手洗いに対して意識の高まりを感じる意見が聞かれた。しかし「前回汚れていた部位を意識して他がおろそかになってしまった」などの感想もあった。

##### ③手洗いに要した時間

概ね30秒～3分をかけた通常よりも丁寧に洗っていた。

●1回目の検査では、とくに特養職員に洗い残しが多かったが、3回目ではほぼ全ての部位で減少したことから継続的な検査の意義が確認できた。

●データ上からは手のひらは比較的丁寧に洗えており、汚れが残りやすい爪の周り・指の間（掌側）は意識的に手洗えば、洗い残しは減少することがわかった。

●指の間（背側）・指の関節（背側）・手の甲・手首は見落としがちなことが見てとれた。他の部位の洗い残しを意識しすぎたという感想と関連づけられる。

#### 《5. まとめ》

アトリエ村では年を通し入館時のうがい・手洗い、年2回の感染防止に関する研修開催、冬期の通勤時のマスク着用義務、また1ケア1手洗いの励行など感染症の発生及び拡大防止に取り組んでいる。

しかしさらに2年間にわたり継続して手洗い検査をおこなうことにより、職員一人一人が自分の汚れが残りやすい部位を知り、手洗いのテクニックを向上させ、また衛生管理に対する意識を高めることができた。また検査と同時期の平成22年から23年にかけて感染性胃腸炎、インフルエンザなどの流行が見られていないことから、手洗い検査の効果と考えられた。

今後の課題として「手洗いチェッカーを意識した洗い方と日常の手洗いとの違い」や「短時間でも効率よく手洗いができる方法」等についても検討したい。

#### 【メモ欄】